

## 助成金等公募情報

## 平成28年度研究開発助成金(平成28年度 第2回)公募

(財)三菱UFJ技術育成財団

技術指向型の中小企業の新技術、新製品等の研究開発に対する助成金の交付事業を行います。

第2回の応募期間：平成28年9月1日～平成28年10月31日

■対象企業：原則として設立または創業後もしくは新規事業進出後5年以内の中小企業、または個人事業者。

■対象プロジェクト：現在の技術水準からみて、新規性があり、技術水準が高く、事業化可能性の高いプロジェクト。

■対象資金：新技術、新製品等の研究開発資金およびその成果の事業化に必要な資金。(調査研究費、設計費、設備費、試験費、試作費など)

■助成金額：助成金額として次のいずれか少ない方の金額。(返還の義務はありません)

・1プロジェクトにつき300万円以内 ・研究開発対象費用の2分の1以下

■審査：申し込みのプロジェクトについては、当財団で調査を行い調査完了後、審査委員会の審議を経て諾否を決定します。

審査内容は、(1) プロジェクトの新規性、市場性 (2) プロジェクトの実現可能性 (3) 経済・社会への貢献内容など

最終決定は、平成29年2月頃の予定です。

■申請手続き：当財団所定の申請書に必要事項を記入の上、下記の添付資料とともに当財団宛書留にてご送付下さい。

(申請書は下記URLよりダウンロードできます)

■問合せ先： (財) 三菱UFJ技術育成財団 TEL：03-5730-0338 FAX：03-5232-0518 URL：<http://www.mutech.or.jp/subsidy/>

## A-STEP ステージⅢ NexTEP-A (平成28年度・第二回)

JST(国立研究開発法人 科学技術振興機構)

A-STEPステージⅢNexTEP-Aは、平成28年度は3回の公募期間を設け、通年で応募を受け付けています。

・第一回：平成28年4月1日(金)～7月29日(金)

・第二回：平成28年7月29日(金)～11月30日(水)

・第三回：平成28年11月30日(水)～平成29年3月31日(金)

■企業の要件

(1) 資本金3億円以下または従業員300人以下の自ら技術開発する会社 (2) 大企業、上場企業、及びそれらの関係会社でないこと

■開発技術の要件

(1) 独創的な国産技術であること (2) 実用化を目的とした開発試作であること (3) 実用化の見込みがある技術であること

(4) 開発予定期間が原則として1年以内であること ほか

■助成金額： 試作費合計額の2/3以下で2,000万円を限度

■問合せ先： (公財) 新技術開発財団 TEL：03-3775-2021 FAX：03-3775-2020 URL：<http://www.sgkz.or.jp>

## 今後のイベント情報



山梨県最大級の“ものづくり”と“情報通信”の展示会です。山梨大学も出展いたしますので、是非お立ち寄りください。

日 時：平成28年11月10日(木)～12日(土)  
10:00～17:00、12日は16:00まで

場 所：アイメッセ山梨(甲府市大津町)

主 催：山梨県機械電子工業会、山梨県地域ICT推進協議会

Agribusiness Creation Fair 2015  
アグリビジネス創出フェア

農林水産・食品分野などの最新の研究成果を展示やプレゼンテーションで紹介する「技術・交流展示会」です。

日 時：平成28年12月14日(水)～16日(金)  
10:00～17:00

場 所：東京ビッグサイト 西4ホール

主 催：農林水産省

## 新技術説明会(予告)

山梨大の研究者が、特許等の研究成果を説明し技術移転を支援します。個別相談もあります。

日 時：平成28年12月13日(火)、時間は未定

場 所：JST東京本部別館ホール(東京・市ヶ谷)

主 催：JST、山梨大

【発行 2016年9月28日】



国立大学法人 山梨大学

研究推進・社会連携機構

新技術情報クラブ事務局

〒400-8510 山梨県甲府市武田4-4-37

TEL:055-220-8754 FAX:055-220-8757

E-mail:renkei-as@yamanashi.ac.jp

URL:http://www.scrs.yamanashi.ac.jp/

## 大学TOPICS

## 平成28年度公開講座「県民コミュニティーカレッジ」が開講

平成28年8月23日(火)、甲府キャンパスにおいて、平成28年度本学公開講座「県民コミュニティーカレッジ」が開講されました。この公開講座は、県内大学・短期大学と(特非)大学コンソーシアムやまなしの共催で平成19年度より実施しており、各大学・短大が毎年特色あるプログラムを提供しています。今年度本学では、生命環境学部地域食物科学科の教員4名が「もっと知ろう!『やまなしの食・農・環境の魅力』」をテーマに全4回の講義を行います。今回は第1回目として、久本雅嗣准教授が「ワインのおいしさの科学」と題し、ブドウ・ワインにおける生産・栽培・消費等の動向を分かりやすく解説し、ワインの外観(色調)・香り・味わいにそれぞれ関与する化学成分がテイastingに与える影響を説明しました



講義する久本准教授

熱心に聴く受講生の皆さん

## ワイン科学研究センターが「醗酵研究所ゆかりの会」「エクステンション部門」を新たに発足

平成28年7月20日(水)、甲府キャンパスにおいて、ワイン科学研究センター主催「夏期特別講演会」、「醗酵研究所ゆかりの会」発足式、「エクステンション部門」開所式・見学ツアーを行い、ワイン企業・団体、県関係者、教職員等136名が出席しました。早川正幸理事・副学長による開会挨拶の後、来賓として後藤奈美(独)酒類総合研究所理事長及び斉藤 浩 県ワイン酒造組合会長よりご祝辞を賜りました。講演会では、本年3月に大学間交流協定を締結したフランス・ボルドー大学のジル・ド・ルベル教授より「ワインの熟成香における官能評価とその化学的研究」と題してご講演いただき、本学との更なる交流に期待するメッセージを頂戴しました。また、本年、本センターの前身となる「醗酵研究所」設立70周年を機に、情報共有やセミナー等を通して卒業生・関係者と連携を図る目的で「醗酵研究所ゆかりの会」を発足させ、準備会共同代表の松本信彦客員教授及び村上安生客員教授が今後の展望を示しました。さらに、本センターをワイナリー等企業と密接に連携させ、技術者の教育や企業での課題解決のための技術的援助等を行うため「エクステンション部門」を新たに発足させ、奥田 徹 本センター長が各種機器が揃う研究室を案内しました。



早川理事ご挨拶

講演するルベル教授

## 企業参入促進に向けて「燃料電池関連製品開発人材養成講座」を開講

平成28年7月29日(木)、「平成28年度 燃料電池関連製品開発人材養成講座」を開講しました。県・(公財)やまなし産業支援機構・本学は、平成27年3月31日に「燃料電池関連産業の集積に向けた取組み」に関する基本協定を締結しており、この講座は本学の研究実績・成果・知見等を踏まえ、県内産業界の社会人技術者等を対象に、燃料電池設計開発に必要な知識・技術を修得し、本分野への参入促進を図る目的で設けられました。初年度の今回は27名の受講生を迎え、平成29年2月まで全60コマ(90時間)、本学教員や多彩な企業・団体講師による基礎講義から製品作りまで充実した講座が行われます。開講式では、飯山明裕 燃料電池ナノ材料研究センター長による開会挨拶の後、島田眞路学長や平井敏男 山梨県産業労働部長より受講者へ激励の挨拶がありました。また、受講者を代表して山形隆裕さん(株式会社メイコー)より決意表明がありました。式終了後は、岡 嘉弘 水素・燃料電池技術支援室特任准教授によるオリエンテーションや、本講座第1回目として飯山センター長による概論講義があり、受講者はメモを取るなど熱心に聞いていました。



飯山センター長ご挨拶

講座の様子



## 山梨大学特許最新情報

山梨大学が出願した最新特許情報につきましては、非公開の情報も含まれますので

会員 以外には公開しておりません。

## 産学官連携 TOPICS

## 「やまなし食のマッチングフェア2016 in TOKYO」に出展！

平成28年7月21日(木)山梨中央銀行主催の展示・商談会「やまなし食のマッチングフェア」が京王プラザホテル(東京都新宿区)本館4Fで開催され、本学も出展致しました。11回目となる今回は「山梨を食べる・楽しむ」をテーマに事業者と地公体・観光関連団体が一同に集まり「山梨」全体をご紹介しました。出展は「食」56社「観光」10団体、県大学4団体にもなり、農・食品関連事業者と「食」のバイヤーや「観光」エージェントとの商談の場となりました。本学は「研究交流(共同・受託研究、学術相談)」やその成果として「山梨大学発ワイン」ポスター展示、ワイン展示、関連資料の配布を行いました。



## イノベーション・ジャパン2016ー大学見本市ーに出展！

国内最大規模の産学マッチングイベントである「イノベーション・ジャパン2016」が8月25日(木)・26日(金)に東京ビッグサイト(東京・江東区)にて開催され、本学からはJST大学見本市ゾーンに「マイクロ流体デバイスによる安価で簡便な自動化学成分分析システム」(工学域機械工学系助教 浮田芳昭)を展示しました。また、2日目にショートプレゼンテーションも実施し多くの聴衆を集めました。本イベントには502団体(大学401、企業101)が出展し、2日間の延べ来場者数は20,000名以上にのぼりました。全国各地から集結した研究者及び中小・ベンチャー企業の開発・研究成果が日本のオープンイノベーションを加速し、新産業の創出に寄与することが期待されています。



本学ブース(最手前)と多くの来場者

## 産官学連携による研究成果発表会・地域連携フォーラムを開催！

平成28年9月2日(金)、山梨県立図書館において、平成28年度「やまなし産学官連携研究交流事業」研究成果発表会・地域連携フォーラムを開催(主催:山梨県及び本学)、県内企業・自治体関係者や本学教職員・学生等約380名が参加しました。

主催者を代表して平井敏男 県産業労働部長及び早川正幸 本学理事・副学長による開会挨拶の後、橋本久義 政策研究大学院大学名誉教授・客員教授より「中小企業が減れば日本経済が減びる」と題した基調講演をいただきました。通商産業省入省後、世界3,700以上の中小企業・工場等を訪問した橋本教授は、そのご経験・実績を踏まえ、現在の世界経済の情勢を解説し、特に中国経済の成長に対しては、日本は中小企業の強みである勤勉性や不況時の懸命な経営努力等を活かすべきとの考えが示されました。ポスター発表においては、本学・県試験研究機関・企業等での研究技術・成果について全68テーマ毎に紹介し、また、県内経済団体や本学研究センター等による産学官連携コーナーや各種相談コーナーも設けられました。参加者はそれぞれのブース担当者の説明に聞き入り、活発に質問するなど有意義なイベントとなりました。



賑わうポスター発表会場

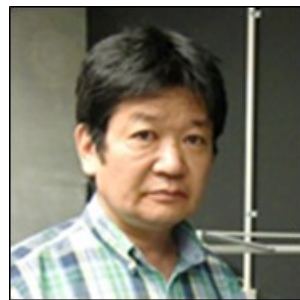
## コーディネータ による【研究者紹介】

## 燃料電池ナノ材料研究センター 教授 犬飼 潤治 (いぬかい じゅんじ)

燃料電池ナノ材料研究センターの、犬飼潤治先生をご紹介致します。

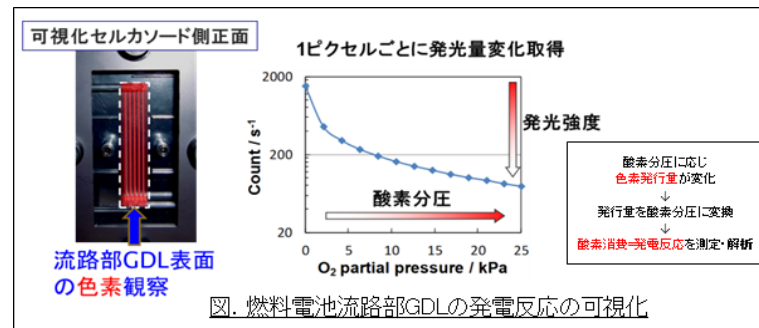
当センターは、HiPer-FCプロジェクト(2008.4-2015.2、NEDO受託研究)で推進した固体高分子形燃料電池の高性能・高信頼・低コスト化を達成する新材料の研究開発成果を、来たるべき燃料電池自動車の大規模普及に繋げるため、新たに「S」Per-FCプロジェクト(2015.5-2020.2予定、NEDO受託研究)を発足しました。本プロジェクトでは、電極触媒、電解質材料、及び触媒層の評価・解析を通してその有用性を検証し、高出力・高耐久・高効率材料としての新コンセプトを創出します。それが貴金属使用量を一桁低減し耐久性を十倍に高めた低価格で信頼性の高い自動車の実現に貢献することになります。

燃料電池の発電効率を高めるには、部材の設計や選定、気体の流路の最適化が必要ですが、そのために、発電中の燃料電池内部の酸素と水素の状態や反応によって消費される気体の経時変化



犬飼先生

を直接評価したいという要求があります。犬飼先生の研究はこれに応えるもので、「燃料電池内3次元反応分布可視化」と呼ばれる画期的なものです。まず、酸素感応色素を用いて燃料電池内部(ガス流路部およびガス拡散層)の発光量を酸素分圧に変換、発電反応を可視化し測定・解析することを可能としました(左図)。さらに、発電中の燃料電池内部にマイクロサイズのプローブを挿入し、ガス流路からガス拡散層、触媒層、電解質にかけての平面および深さ方向の物質の同定と状態を測定する研究をすすめました。そのなかで、酸素濃度を深さ方向にモニターする



方法を確立、装置の商品化に繋げています。この様な「燃料電池内3次元反応分布可視化」の研究により、燃料電池設計における高性能化、低コスト化、高耐久性化がさらに加速されいくことが期待されています。(記:最上産学連携コーディネータ)

## 新技術情報クラブ イベントほか

## 今年度第一回クラブ交流会を開催しました！

9月9日(金)15:00-17:25に、本クラブの2016年度第一回交流会を山梨大学にて開催し、クラブ会員は6社1団体から9人、大学から5人が参加しました。交流会では、還田統括コーディネータの挨拶と今年度の活動状況説明、内藤地域連携コーディネータの自己紹介後、工学域電気電子情報工学系 豊浦正広助教の講演「デジタルファブリケーションとしての伝統織物」を聴きました。その後、燃料電池ナノ材料研究センターに移動し、飯山センター長より「山梨大学における燃料電池研究の取り組み概要」の説明を受け、機器見学を行いました。交流会後は、18:00より会場を甲府駅ビルCELEO 5Fスクエアに移し、中華料理を食べながらの懇親会を行いました。豊浦先生や内藤地域連携コーディネータも含む会員6人大学4人が出席され、和やかな雰囲気での談笑できました。新しい方々との懇談はお互いに新鮮で刺激になり大いに盛りまりました。皆様のご意見を戴きながら、さらに楽しい交流会にして行きたいと思っております。次回(2016年度第二回交流会)は来年3月の予定です。



豊浦先生ご講演と質疑応答



中華料理で盛り上げました

## 内藤 地域連携コーディネータをご紹介します！

山梨中央銀行と山梨大学との協定のもと、産学連携を支援する人材として内藤久俊地域連携コーディネータが、7/1付で社会連携・知財管理センターに派遣されましたので、Q&A方式でご紹介致します。

Q1:プロフィールを簡単に？ → 山梨県人・甲府市民で、甲州弁は達者です。山梨中央銀行の支店長を数か店経験、山梨県銀行協会を経て、当センターに常勤しています。

Q2:趣味、特技は？ → 歴史に興味があり、名城巡りと神社仏閣の御朱印集めを妻と楽しんでいます。

Q3:地域連携コーディネータとしての取組みは？ → 新事業の展開や既存事業の次なる転換へのヒントとなる大学の技術シーズを事業者の皆様を提供するとともに、産業界のニーズを大学に提供し、双方の橋渡し役として産学官金の連携を一層推進していきます。

Q4:新技術情報クラブ交流会(9/9)に出席した感想は？ → 皆様それぞれ事業に対する問題意識が高く意欲的な方々の集まりで、大いに盛り上がり大変有意義な交流会でした。



内藤地域連携コーディネータ

熊本城